

「明るい未来をつくるために願うこと」

河津 芙紀

「ようやく選挙権を得たよ！これで私も大人の仲間入りなんだね！」18歳の誕生日に、私は家族の前で、ここまで育ててくれた感謝とともに、自分も選挙に行くことができる喜びを伝えました。私は大学進学までの間を3世代家族で生活してきました。小さいころから、我が家の朝食時と夕食時は家族みんなでニュースを見て、どんな出来事があったのかを知って、各々が意見を出し合っていました。もちろんディベートのようなかたい話合いではありません。会話の中で自然と自分の意見を述べ合っていました。政治や選挙についても同様です。しかし、幼いころの私には祖父母や両親の話していることが全く分かりませんでした。「私にだってほかに見たい番組があるのに」と癩癩を起こした時もありました。しかし、中学3年生のときです。社会科の公民の授業が始まりました。当時は、『公民』と聞いても正直何のことかわかっていなかったと思います。ですが、習っていくうちに、選挙とは何なのか、憲法とはどんなものなのか、法律はどのようにして決まっていくのか…など日本という国がどのような仕組みをしているのかがだんだんと分かってきました。そこから、少しずつ私の中で変化がありました。まず、ニュースで何を言っているかが分かるようになってきました。報道内容が授業の内容と結びついたときには、「知っている」ということに喜びを感じました。それに伴って家族の会話も理解できるようになってきたのです。そこから、何となくでいいから政治に対して自分の意見を持とうという思いが芽生えました。そしてこの頃に公職選挙法の改正に伴い、選挙権を持つ年齢が20歳から18歳に引き下がりました。政治に関心を持ち始めた私にとっては、自分が国政にかかわれる日もそう遠くはないと18歳の誕生日が待ち遠しいものになりました。

昨年、待ちに待った選挙権を得ることができました。既に何度か選挙は行われていたため、先に誕生日を迎えた友人らに選挙に行ったか尋ねてみました。しかし、みんな口をそろえて行っていないというのです。私には不思議でなりません。「せっかく自分たちの1票で未来の日本を作っていくことができるのに、もったいない」と思いました。実際にデータを見ても、若者の投票率は依然として低いと報道されています。でもなぜなのでしょう。何か原因があると思い、少し考えてみることにしました。はじめはやはり、主権者意識が低いのではないかと思いました。しかし、誕生日を迎え、選挙権を手に入れたこと自体は喜んでる友人が多かったように思いました。高校では主権者教育が積極的に行われていましたし、授業でも公民の科目として学習しました。最近では若者の多くが利用している動画サイトやSNSでも投票が呼びかけられてい

るのをよく目にします。そのため、自分も1票持っているという意識に対しては多くの若者が持つてゐるのではないかと考えました。そうであるなら尚更、疑問は深まります。次に私が考えたのは、結局、立候補者が何を言っているのかがピンとこない。難しいから投票しないという考えです。立候補者は公約をいくつか発表します。しかし、若者がみて関心を持つのは国政を例にとれば、消費税の問題くらいだと思います。確かに、年金問題であったり子育て問題であったり、未来を考えて私たちも考える必要はあると思います。ですが、今の若者・学生にも直接的にかかわる公約について知る機会はなかなかありません。私は、若者の投票率が低いといわれる原因はそこにあると思いました。一つでも今の自分にかかわる政策があったら、ほかの候補者も見ようという意欲が湧いてくると思います。現在は大学生なので、教育制度のことや就職のこと、また、アルバイトをしているので労働環境についても興味を持っています。同じように考えている学生もきっと多いはずです。とにかく若者でも興味を持ちそうな公約をもっと大きく掲げてほしいと思います。そして、興味を持って公約が多いと候補者を比べるのも時間がかかり、混同しがちになります。そこで一つその解決案だと思った例を紹介します。有志の団体が、ある知事選で候補者に対して一つの政策から比較している表をSNSにアップロードしていました。○や×だけで公平に判断されていて一目でわかるものでした。大学生も高校生も忙しい日々を送っています。私自身も以前のように、毎日ニュースを見る時間はほとんどなくなってしまい、ネットニュースを頼っています。でも今回の例のようにインターネットやSNSを有効活用して短時間であっても政策の比較ができるようなものがあれば良いなと思いました。以上のことから、短時間で知ることができて、かつ直接的に若者にもかかわる政策がより目に留まりやすくなれば、若者の選挙への関心と投票率は向上すると考えました。

「この1票が未来を変える」そう自覚している若者は少なくないと思います。しかし、具体的に踏み込んでいくと難しく立ち止まってしまいがちです。だからこそもっと政治・選挙を前面に打ち出して、かつシンプルに知ることができたら、本当に若者の力で未来を明るくできる日がやって来るかもしれない、私はそう思います。